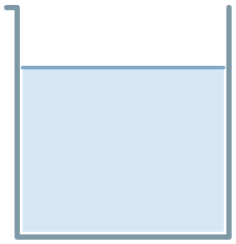
水にとける塩・とけにくい塩

中和でできる塩は、いつも水にとけているのか

A うすい塩酸 ＋ うすい水酸化ナトリウム水溶液

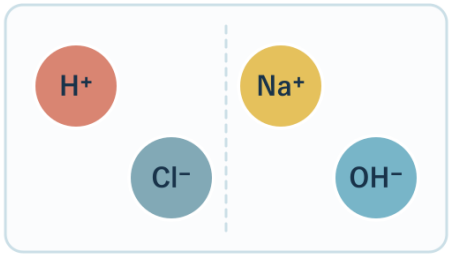


混ぜた後の液

液は、すき通ったまま。
できた塩化ナトリウムは、
イオンのまま水にとけている。

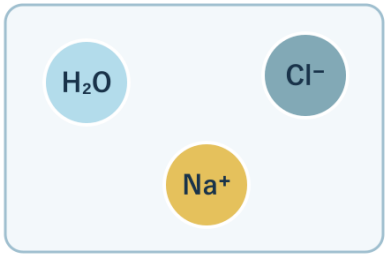
→ **水にとける塩**

混ぜる前



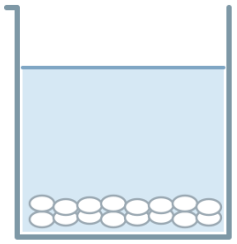
塩酸　水酸化ナトリウム水溶液

混ぜた後



Na⁺ と Cl⁻ はばらばらのまま

B うすい硫酸 ＋ 水酸化バリウム水溶液



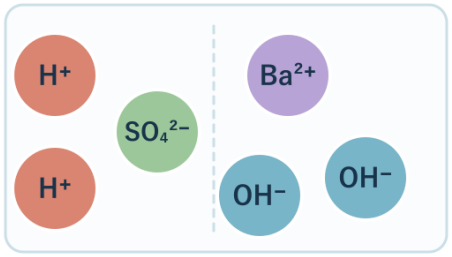
混ぜた後の液

液が白くにごり、やがて
白い沈殿が底にたまる。
できた硫酸バリウムは、
水にほとんどとけない。

← **白い沈殿**

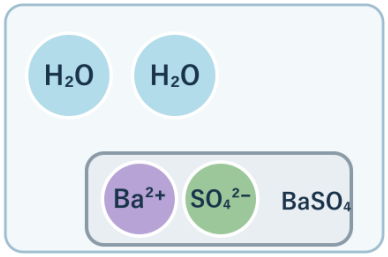
→ **水にとけにくい塩**

混ぜる前



うすい硫酸　水酸化バリウム水溶液

混ぜた後



結びついて沈殿（固体）

共通：$H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$　どちらも中和で水ができる。

違い：残ったイオンが、A は水にとけたまま（塩化ナトリウム）。
B は $Ba^{2+} + SO_4^{2-} \rightarrow BaSO_4$ と結びつき、沈殿する（硫酸バリウム）。

塩には、水にとけるものと、とけにくいものがある。

安全

保護眼鏡をかける。水酸化バリウム
は先生が管理する薬品。手やはだに
つけず、廃液は先生の指示で処理する。

※ 模式図。粒の数は式の比を示し、ちょうど中和した場合を描いた。粒の大きさ・色は実際とちがう。完全な操作手順ではない。